



鹿屋体育大学出身のJリーグコーチによる指導者講習会 (分析編)

戦略的社会貢献プロジェクト：村川大輔

事業概要

近年、サッカー界ではGPSをはじめとするテクノロジーを活用したデータ・パフォーマンス分析が広く普及し、選手の走行距離や加速度、スプリント回数といった客観的数値が把握できるようになっている。これにより、コンディション管理や戦術の検証が可能となった一方、その活用は単なる数値の収集にとどまらず、現場の指導に結びつける専門的知識や分析力を必要とする。しかし、そうしたスキルを持つ人材は限られており、指導者の力量に依存してしまう点が課題とされている。このような状況を踏まえ、本講習会ではプロサッカー界で活躍する本学OBのコーチやアナリストを招聘し、彼らが現場で培ってきた最新の知見を共有する。内容はデータ分析にとどまらず、トレーニング分析やスカウティング手法、ミーティング運営の実際、さらにはサッカー界の最新動向まで幅広く扱う。参加者は実践的スキルを習得するだけでなく、総合的な指導力の向上を図ることができる。さらに、この講習会は鹿屋体育大学および本学OBを中心とした産学官連携によって開催され、地域指導者へのリカレント教育の場としての役割も担う。これにより、地域全体の指導力向上に貢献するとともに、本学の特色を全国のサッカー指導者へ発信することで、大学の認知度向上や将来的な受験者増加にもつなげる。加えて、本事業は将来的に他競技への展開を見据えたモデルケースとして位置づけられる。

事業実績・成果

講師紹介



堀尾郷介 (27期)
・名古屋グランパス (J1)
・南葛SC
・中部大学サッカー部



今崎晴也 (31期)
・松本山雅 (J2)
・モンテディオ山形 (J2)
・FC東京 (J1)
・マレーシアA代表



安井聡志 (31期)
・ジェフ市原・千葉 (J2)
・横浜Fマリノス (J1)
・大分トリニータ (J2)

参加者の様子 (アンケートより抜粋)

鹿児島県内外から19名
(高校生・大学生含む) の参加者が参加



講習会受講後、ご自身に変化した点は？

- ・試合の分析の仕方が変わった
- ・分析の重要性の再認識と映像化の重要性
- ・感情をのせないで伝えること情報

参加者Aさんの声

今回は、貴重なデータやお話をありがとうございました。日々研鑽され、蓄積された皆さんのお力をマジマジと感じるとともに、感情的ではなく、純粋にサッカーのフィードバックをする。と言う姿勢は、今の時代に育成指導者が身につけるとよいスキルや考え方であると感じました。受講申し込み時は、受講者に保護者から指導者までいる事で、内容をどこに合わせるんだろう？と思っていましたが、今回の内容はどの立場でもサッカー好きなら皆んなが学びを楽しめる内容だったと思います。子どもは小学生ですが、機会があれば子どもにも聞かせたいなと思いました。

講習内容 (1日目)



全体講話 (堀尾氏) の様子



分析1 (今崎氏) の様子



分析2 (安井氏) の様子

-9:50 受付 205教室

10:00-10:30 全体講話 (Jリーグ分析の動向)
担当：堀尾氏

10:40-12:00 分析1 (自チームの分析)
担当：今崎氏

13:30-14:50 分析2 (相手チームの分析)
担当：安井氏

15:00-16:30 効果的なミーティング方法
担当：堀尾氏

講習内容 (2日目)

-9:00 受付 サッカー場

9:00-12:00 演習1 (会場：サッカー場)
・高校生の練習試合を分析。
演習2でディスカッション。
・映像を使ったハーフタイムでのミーティングの実践：堀尾氏

13:30-16:00 演習2 (会場：205教室)
・受講者と講師でディスカッション
・高校生へ分析フィードバック。
自チームの分析：今崎氏
相手チームの分析：安井氏



演習1 (試合分析) の様子



ディスカッションの様子



フィードバックの様子

〇成果

指導者講習会の成果として、まず地域におけるリカレント教育を実現することで、社会貢献活動を実施できた点が挙げられる。また、本学OBとの連携を強化し、ネットワークを広げる契機となった。さらに、受講者の中から大学院受験・合格に至った事例もあり、将来的な人材育成や受験生獲得につながる成果が得られた。加えて、事業の収益化につながる手がかりも見出され、今後の継続的な展開に向けて重要な成果を上げることができた。

今後の事業の展望

本事業は今回が初めての開催であり、現役のJリーグ分析コーチを招聘した「分析編」として実施したことで、現場を指導する参加者の満足度は高かったと実感している。特に、指導現場でニーズの高い「データ分析」や「ミーティング」など、サッカーの観方や伝え方を扱う講習会は継続していくことが有効だと思われる。

そのため、令和7年度も本事業を継続し、指導者講習会を展開していく計画である。さらに、都市部での開催を通じて集客力・収益力・広報力を強化することや、参加者の多様なニーズに応える講習会を実施することで持続的な事業展開を目指していきたい。